

ねりまの文化財

国指定・練馬区登録天然記念物

練馬白山神社の大ケヤキ

樹勢回復工事終わる

練馬白山神社の境内には、樹齢七〇〇〜八〇〇年と推定される大きなケヤキが二本立っています。この巨木は、源義家が永保3年(一〇八三)奥州征伐に出陣する際、奉納した苗木が大きくなったものという言い伝えがあり、昭和15年、国の天然記念物に指定されました。二本のケヤキの根元には、巨大なコブがあり、このコブが老大木としての風格を出しています。

ところが、平成元年7月、社殿に近い方のケヤキの根元が浮き上がり、幹が傾きました。区では、応急処置をする一方、二本のケヤキの現状を調査しました。その結果、倒れかか



ったケヤキの幹は、内部はほとんどすべて腐朽して、樹皮だけが生きていることがわかりました。そこで、恒久的な保護対策として幹の上部を切断し、腐った所を取り除き、支柱

練馬区教育委員会
社会教育課
(文化財保護係)
☎ 3993-1111 内線 2766
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

文化財保護推進員が12名になりました

練馬区文化財保護推進員は、昭和63年2月に8名が委嘱されて誕生しました。文化財保護推進員の方々には、区内の文化財について随時巡視を行い、その所在や保存状況を把握し、文化財保護思想の普及啓発活動をすすめていただいています。今回、定数が12名に増え、新しく次の3名の方々が文化財保護推進員に就任されました。

- 荒井道子 元豊玉第二小学校教諭
- 林 勇 郷土史研究家
- 檜山月子 元大泉第一小学校教諭

掛けなどの工事を公園緑地課で行ない、このほど、その全ての工事が終わりました。

この大ケヤキは、明治17年(一八八四)の暴風によって主幹が折れ、その東側に出た支幹が主幹となり、さらに大正9年(一九二〇)の失火が原因で主幹に空洞を生じたといわれるなど幾多の災害に耐え現在に至っています。今回の工事も、将来「平成の大手術」として語られることでしょう。そして、同時に私たちがこの木を大切に想う気持ちも伝わるのではないかと思います。

テレビドラマの太平記では、元弘の変(一三三三)が終わり、得宗北条高時以下一門は、鎌倉葛西が谷東勝寺で自刃し果てました。

奇しくもこの地は豊島・葛西氏の祖で、源頼朝の信任が厚かった葛西清重の居館跡です。

さて、次に太平記第二部。南北朝動乱のきっかけとなった「中先代の乱」の主人公は、前回述べましたように北条高時の遺児時行です。

乱の後、逃れて同じ平氏の系統の石神井城主豊島景村(10代泰景の弟)に一時身を寄せ、一子輝時をもうけましたが、その後尊氏に捕

神井に道場寺、金杉に世尊寺を建立し、間もなく永和元年(一三七五)この地で没しました。推定40歳ぐらいと思われる。子に景則とありますが家系は絶えました。

時行が処刑された正平8年の一年前、正平7年2月20日銘の珍しい南朝年号板碑が区内で出土しています。(板碑は扁平な秩父緑泥片岩で作った中世の供養碑で、資料の少ない中世では文字資料を補充する石造物。)

練馬区は、23区内では板橋区と共に板碑を多く出土しているところです。欠損品も含め

太平記と練馬区(二)

えられて正平8年(一二五三)5月20日、鎌倉竜ノ口で処刑されました。それまでの18年間の行方は定かではありません。一説によれば、時行は北条家再興のため南朝方となり、親房の子北畠顕家に従って戦ったり、義貞の子新田義興に属して度々鎌倉に攻め入ったともいわれています。

さて、豊島景村に育てられ養子となった輝時は、景村と共に南朝方に就き、忠勤に励み共に従五位下に叙されました。しかし、その後、尊氏の孫足利義満が三代將軍となった後、父時行や養父景村の菩提の為にどうか、石

と約300基(うち、題目板碑100基・大泉地域のみ出土)もあります。

その中で造立の盛んだった南北朝時代のもの約40基、さらに石神井城付近からの出土と推定されるものが10基あります。区内出土300基の中で南朝年号は、三宝寺の裏山出土とされるこの正平7年銘板碑しかありません。もちろん都内及び関東でも数少ないものです。

では今から六四〇年前の正平7年前後は、どんな動乱が展開されていたのでしょうか。

正平7年は北朝年号の観応3年(9月に文和と改元)に当たります。すでに京都の北朝が

優位を占めたものの、足利一門の主導権争いの内訌が激化し、「観応の擾乱」となりました。

足利一門では尊氏の執事高師直と尊氏の弟直義との不和。尊氏の子で直義の養子となった直冬が長門探題となり、尊氏の次子基氏が関東管領となる。尊氏と弟直義との不和。のち和して師直殺さる。尊氏の長子義詮と直義と不和。尊氏一時南朝に下り北朝を廃す。そして遂に正平7年2月、尊氏は弟直義を鎌倉で毒殺47歳。新田義貞の遺児義興ら武蔵野合戦で尊氏を浅草の石浜へ敗走窮地させたが、

文化財保護推進員

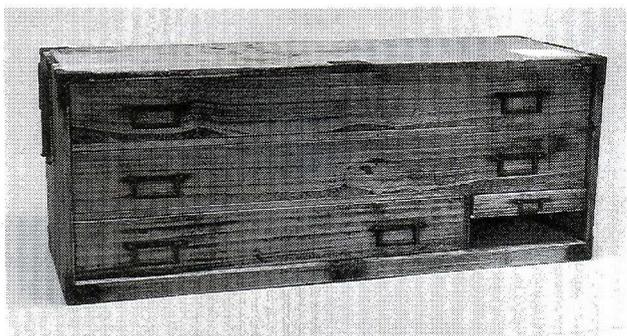
瓜生清

のち鎌倉を奪回される。5月南朝再び吉野へ還幸。8月義詮再び北朝を擁立。直冬南朝方となり九州で勢力。正平8年北条時行処刑。直冬京都を攻め尊氏父子近江へ敗走、のち奪回。北畠親房病死62歳。

そして正平13年4月20日尊氏遂に病死54歳。つづいて新田義興多摩川矢口ノ渡で謀殺28歳など、果てしない骨肉の抗争が続きました。

元来、石神井郷は郷地頭職の藤姓宇多氏の保持する土地で、鎌倉中期に重広の子女3人等が嫁した泉・宮城・豊島各氏の女人へ安堵相続されました。尊氏ころ貞和5年遵行(承

郷土資料室収蔵品シリーズ 第8回



総桐の箆笥(横幅114cm×高さ46cm×奥行40cm)

箆笥が庶民の家具として使われ始めるのは、明治中期から大正時代にかけてである。しかし練馬においては、この頃箆笥はこの家庭でも見られるようなものではなかった。この箆笥は、区内の旧家から寄贈された総桐の箆笥の一部で、寸法も今のものと同じ位である。恐らくこの上に幾つか重ねて使用したものであろうが、現在は残っていない。この箆笥の底に墨痕鮮やかに「嘉永七甲寅仲秋出来之柳澤要人成知」と記されている。嘉永7年(一八五四)といえ、米使ペリーが浦賀に来航した翌年あたり、今から一三七年前のことである。本資料室には、百年以上前の年号が記されている民具が四点収蔵されており、これはその中の一点である。

ペリーが来航した頃の箆笥

認)後、豊島氏領有し一時収公後、11代宗朝・12代泰宗に永代還補されました。宗朝には有名な神皇正統記を執筆しながら南朝挽回に努めていた北畠親房を、常陸小田城に攻めた暦応の着到状(参陣証明)があり、また豊島庶流の志村親義が、足利直義党へ参陣した観応の着到状には、太平記で高師直のため恋歌を代筆した歌人武将、武蔵国守護代薬師寺公義の証判(証明のサイン)があつて面白いものです。12代豊島(泰宗)に与えた貞治の軍忠状(戦功証明)も残っていて、豊島・葛西氏はな

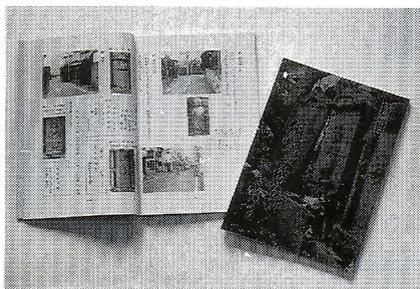
べて北朝方でありました。南朝の支持を推察出来るのは景村輝時父子伝や正平7年銘板碑です。また観応3年に足利義詮が細川式部大夫宛教書に、豊島一族が新田軍に属している内容の文書などが残っているくらいです。現在の光が丘公園弓道場(旧弁天祠)付近から、成増飛行場建設のときに貞治・康暦まで9基の板碑が出土しました。また幕末の文化年間十方庵敬順の『遊曆雜記』の中に、練馬将監嘉明の話があります。『上練馬村中宮の城山に代々居住し、康安貞治の間、下野宇都

宮城主芳賀入道善可が板橋筋で鎌倉勢と度々交戦した時、将監も鎌倉勢に追詰められてただ一騎で駆出し、石神井の山中に遁入。しかし敵軍に囲まれ矢を受けることミノ毛のよう、深田にはまり遂に馬上で自決したという。その跡が三宝寺池となり、鞍は沈んで池の主となつた。』とあります。地方に残る太平記の複合された物語でしょうか。庶流や国人衆の抬頭と分立、在地領主化も太平記が教える大切な一面であります。

「練馬の石造物―路傍編 その一―」

を頒布しています

郷土資料室では、昭和62年より区内の石造物の調査に取り組み、このたび、区内全域にわたって調査した路傍の石造物のうち、東部にある102か所、182基の写真を銘文とともに紹介する資料集「練馬の石造物―路傍編 その一―」を刊行しました。この6月1日から、練馬区郷土資料室・教育委員会社会教育課文化保護係・情報公開室において、一冊100円で販売しています。



生きています『練馬大根』

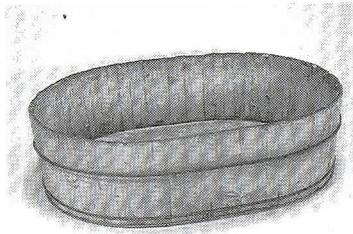
文化財保護推進員 亀井 邦彦

江戸時代末頃には、すでに全国的にその名を知られ、明治以後には海外にまで大量に出荷された「練馬大根」も、病虫害の発生や、特に戦後の都市化の影響を受け、昭和30年頃までの間にほとんど姿を消してしまいました。

「練馬大根」の名で知られる大根は、元々漬けるもの用に、収穫し、干して漬ける手間も大変で、たまたま昭和初期頃から需要が増した生鮮野菜に転換した農家も多く、戦時中には石神井・大泉方面にたくあん生産の中心が移っていました。戦後はここからもさらに西へ去



練馬大根取り入れ風景



練馬大根沢庵漬をつくる時に使用した、長い大根を洗うための小判型洗い桶

り、一方で茨城県や群馬県方面にも移っています。

こうした中で、自家用を中心に今日まで細々と練馬大根を作ってきた農家もあります。平成元年度からは練馬区も、この文化財ともいえる練馬大根の保護・育成を図ることとなり、地元の農家の方に委託栽培をお願いし、農協や漬けもの組合のご協力も得て、一部市場へも売り出されています。しかし、生産者の努力は並々ならず、進む都市化の中で、練馬大根の復活は今後の大きな課題になっています。

※民俗行事所在調査を実施中

現在、区教育委員会では、区内で行なわれている富士講や念仏講などの講について、所在を把握する調査を実施中です。12名の文化財保護推進員が聞き取り方式で実施しています。又、講の所在について情報を文化財保護係までお寄せ下さい。ご協力お願いします。

担 当 地 域

- 荒井道子 — 南大泉
- 井口 敏 — 関町(全域) 他
- 石井 薫 — 東大泉
- 伊藤経一 — 豊玉(全域) 他
- 岩崎美智子 — 富士見台他
- 瓜生 清 — 大泉町・土支田他
- 亀井邦彦 — 北町・早宮他
- 桑島新一 — 春日町・田柄他
- 鈴木曹元 — 桜台・羽沢他
- 長坂淳子 — 上石神井他
- 林 勇 — 石神井町・谷原他
- 檜山月子 — 大泉学園町他

〈お悔み申し上げます〉

加藤 佐平さん 72歳

(平成3年5月10日逝去)

練馬区文化財保護推進員 田柄・春日町・高松・光が丘の歴史を主に研究